

水でたどる歴史とあゆみ



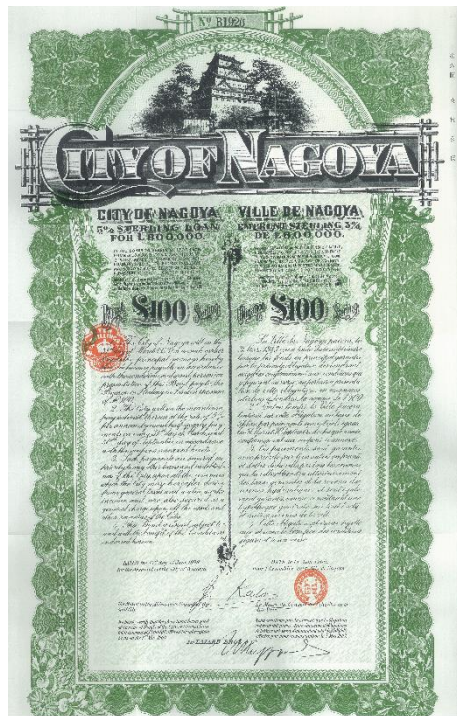
外国から資金調達 (英貨公債)

明治39年に水道布設が議会で議決されると、創設工事にかかる資金を調達するため、公債募集の準備が進められました。

当初は上下水道布設費のみ単独で募債する計画でしたが、途中から当時の名古屋市の5大事業である鶴舞公園新設費や精進川(現在の新堀川)改修費などを一括して、80万円の公債を募集することになりました。

この募集は、内債による予定でしたが、市債の一部を募集したところ、外国資本家の間で注目されたことから、外債発行による資金調達に改め、明治42年に英貨公債を発行しました。

起債総額は80万ポンド(781万6,000円)で、年利率は5%で昭和18年まで償還が続くことになっていました。この外債発行は、本市初の、そして唯一のものとなります。

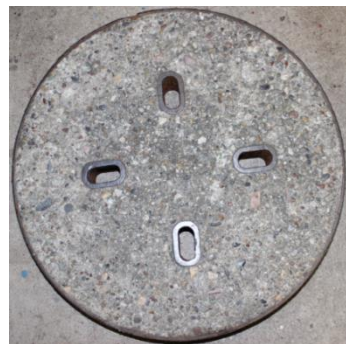


英貨公債証書100ポンド券

名古屋市の歴代マンホールのふた

昭和23年から採用されました。戦後、鉄製のふたがよく盗まれたので木製のふたで応急処置をしましたが、これも盗まれるなどしたため、鉄筋コンクリートの重いふたを使用しました。主に歩道上に設置されていました。長期間開閉しないと縁が錆付いてふたを壊さないと開かない等の欠点があったため、昭和52年10月に採用を中止しました。

コンクリートふた



水の歴史資料館
HISTORICAL MUSEUM OF WATERWORKS AND SEWERAGE

開館時間：午前9時30分～午後4時30分
休館日：月曜日(休日の場合は直後の平日)
開館5周年記念企画展開催中(詳しくは資料館HPまで)